

(用語の確認)

- ① コンセプト ; 提案が伴うべき感性、印象
- ② 考え方、理念 ; 提案が立脚すべき前提 ~ 提案が備えるべき要素について、皆の様々な意見を5つの「考え方、理念」として要約した。従って、「考え方、理念」の意味するところは人によって様々である。
- ③ 視点 ; 都市計画上の充足必要点 ~ 「視点」に欠けていてよい物は無い。従って、提案を評価し、5つの「視点」の何れかが欠けているものは落第とすべきである。

⇒⇒ ②、③の性格は異なる。従って、どういう評価点数配分であれ②、③は別途集計し、②、③夫々の評価視野から個別に評価すべきである。



個々のの提案について②、③各5項目の充足が如何か、各提案者から説明を受けるべきである。

(複合型スタジアムの評価基準充足度)

②-1. 「国際平和文化都市実現への寄与」

§ 国際/ピッチは国際寸法、FIFA公認規格人工芝とし、ヨーロッパリーグを呼び世界選手権を招致する。

スタンド下には広島物産館、観光案内所、博物館、等々を配し、原爆前を観光客により知ってもらうことで原爆の非人道性の一層の国際的理解を深める。人工芝ピッチでは国際的イベントを持つ。

§ 平和/スポーツは疑似戦争として逆説的に家庭、地域、国家の平和の象徴であり、戦争回避の一助である。

§ 文化/スポーツは文化である。真・善・美を肉体で表現する芸術である。それを理解する市民がつくる町が文化都市である。

⇒⇒ 「国際平和文化」のうち「国際平和」と括られるのは極めて政治的側面であり、その文言が独立的に存在するというのは近代的には幻想である。

-2. 「広島市の歴史、特性等との関連」

§ 歴史/広島市の歴史特性の主要な一つは拠点性（安芸国であろうが中国地方であろうが、官庁・企業・軍・運輸・商流・文芸、スポーツフランチイズであろうが）にあった。また、広島市の近代史は「球技王国」にもあり、サンフレッチェの拠点を確立（その経営採算性に寄与することを含む）して拠点性の象徴を守ることは広島市の歴史に沿っている。

§ 特性/広島市の都市機能と市民生活の特性の大きな一つは、拠点性と自然条件から生まれた高密度と多機能の「多様性」「複合性」にあった。手の届くところにあらゆる自然と機能が混在している。えてして郊外型とってしまう大学や飛行場、運動公園も広島では手の届くところにあったのも、それが広島特性と言える。スタジアムの複合型も多様性の象徴である。

⇒⇒ スタジアムと「水」との関連は「単なる設計、デザイン上の問題」とも言えるし「無理な設計（例：沈下ピッチを“プール化”出来るようにする）をして水と関連づけてもコストに合わない」とも言える。唯、ピッチ下に貯水槽を設置し、これにアストラム・シャレオの防水害機能、都心の災害対策機能（例：大火、濁水）を持たせて水との強い関わりを有する事も出来る。

-3. 「広島市の魅力を高める都市機能」

§ 魅力/原爆資料館や各種慰霊碑は貴重な記録ではあっても魅力となるものではない。都市の魅力は、鎮魂という行動猶予からではなく未来志向の行動からしか生まれない。亦、真の鎮魂は、被爆から生きのびた子や孫の幸せな姿に

こそあるとも考える。

サッカーの真の魅力は専用球場での肉薄する躍動や汗、行き交う声にある。まだ多くない専用球場でのサッカーの醍醐味と、人工芝ピッチで繰り広げられる各種ライブ公演、そして、興行の合間に集う市民老若男女の健康な遊戯の姿は、他都市には無い魅力となる。

-4. 「周辺も含めて経済の活性化に寄与」

§ 集客／年数百万人が寄るスタジアムで一定水準以上の飲食も買い物も出来なければ、その人達は周辺に流れる。複合スタジアムに商工会議所、青少年センター、こども文化科学館を収容してここを観光バス駐車場とすれば、観光客の流れを平和公園・原爆ドームから基町へ八丁堀へ、或いは本通りから大手町、シャレオへと導くことも出来るだろう。

尚、ピッチ下も駐車場とすることは可能である。

§ 集客／複合型スタジアムが集客する要素には次のものが考えられる。

1) サンフレッチェ、及び女子サッカー試合の観客

2) 複合施設（観光案内所、物産館、博物館、ホール、他）への来訪

3) “（商工会議所、青少年センター、こども文化科学館）への来訪

4) “（スタンド下部の自由広場、光り芸術壁）の参加者と来訪

5) 各種興行（音楽、神楽、邦楽、レスリング、サーカス、映画、他）の聴観客

6) “（サッカー・ヨーロッパ、アジア選手権・世界選手権誘致）の観客

7) 市民行事（各種祭事、少年サッカー、ソフトボール、盆踊、他）の参加者

8) 次代設計（太陽光パネル壁・天蓋、ミニ風車列、サッカー殿堂）の観光客

※太陽光パネルで 1,000kw、ミニ風力で 400kwの発電が見込める。

9) 観光バスからの出、戻り客

上記各項の集客人数は読みにくい。間違いなしに読めるのは

1)が32試合で 40~50人

5)が12興行で 60~80人

と、この2項目だけで100人には達する。そして5)は、運営企画によれば300~400人の集客キャパシティを持っている。

-5. 「将来の社会環境の変化に対応する」

§ 人口／社会統計上の人口減趨勢を広島市の将来の前提とはしない。広島市の魅力を高め、その使命1)、歴史・特性2)、魅力3)、経済寄与4)を踏まえた都心施設が実現すれば、昨今の郊外人口の都心回帰傾向からしても広島市の人口は福岡のようにこれからも増えるであろう。

§ 高齢化／これが複合型スタジアムの有利点である。スタンド下施設は幾らでも時代に合わせたものに改装可能であり、興行5)と市民行事7)は時の市民が必要するところに合わせて企画することが出来る。

§ エネルギー／埋蔵化石燃料、ウラン埋蔵量はこうした施設の耐用年数には間に合いそうである。従って、施設にエネルギー問題との絡みが出るとするなら、スマートグリッド態勢の進展により個々の施設がエネルギー“自立型施設”であることと環境貢献型であることが要請される処に、であろう。1,400kwの発電能力と蓄電池を持てばエネルギー自立は可能である。足らぬなら、ピッチ下の駐車場、又は貯水槽スペースを後日にて“バイオマスガス化燃料発電基地”とすることも出来る。

§ 飲料水／この問題は、本件の検討課題には馴染まない。

§ 経済構造／この問題への対応は上項の「高齢化」への対応と同様である。

③-1. 「市全体での都市機能の分担」

(1) 都心性／スタンド下には「都心にあつてこそ」の施設を配置してある。都心のサッカー場は広島市街の多様性と高密度性の象徴であり、あたらしい“広島らしさ”を演出するものである。

(2) 機能分担／西飛行場は作っても解体容易な施設とし将来の飛行場復活に備えるべきで

ある。大学跡地は教育と知のヤード、二葉の里は各種高度技術と地元産業の中核地とするべきである。球場跡地は観光と市民の祭りに寄与する市民生活センターの役割を果たす。

-2. 「良好な都市景観の形成」

- (1) 緑道/生き残った者の幸せの姿との対比から真の鎮魂を生む。
- (2) 緑道/ピッチを10m掘り下げて周辺景観、世界遺産バッファゾーンに配慮し、あとは設計・デザイン上の問題である。尚、この“掘り下げ”は、地下街シャレオ、及びアストラムの防災機能も果たす。
- (3) 丹下都市軸/こども、スポーツ機能、未来志向からお城歴史への導線として、丹下軸を構成する役割と機能を果たす。

-3. 「にぎわいの創出」

- (1) 駅前/最低100人、運営企画次第では施設能力としては350~500人の集客能力があることを上に述べた。加えて、②-4.2)3)4)の「複合施設」が日常的集客を担保するであろう(参照:②-4)。
- (2) 多世代/このテーマに対してこそ“複合型”の特長が発揮される。複合型スタジアムは一定のものを提供する施設ではなく人々が活用する施設である。これを変わらず“多世代へのサービス提供”をテーマとして企画運営して行けばよい(参照:②-3,-4,-5)。

-4. 「国内外からの集客」

- (1) 国内集客/未だ少ないサッカー規格球場には多くのサッカーファンが、ここで举行される臨場感あふれるライブ興行には多くの人々が集まる(参照:②-3,-4)。
- (2) 海外集客/サッカーでは国際リーグ、国際選手権を呼ぼう。ピッチには世界的アーティストを呼ぼう。その来場者数もさりながら、世界の人々が広島で生きた者に被爆惨状より被爆後の市民生活を問うてきた経験からすると、遅く幸せに生きる市民の姿により多く人々がの今(と未来)の広島に興味をもって訪ねて来るように思える(参照:②-4)。

-5. 「周辺地域との連携による相乗効果」

- (1) 駅前/都市再生基点の平和大通り、鎮魂の平和公演、市民再生祈念の中央公園、そして歴史基点の広島城。球場跡地のスポーツ施設はまさにこの軸に沿っている(参照:②-4、③-2)。
- (2) 周辺地域/多人数の集客拠点、一定水準以上の飲食・物販を提供しない施設、ということから、周辺地域との相乗効果はあっても周辺地域との連携が醜悪なものとなる要素はない(参照:②-4)。
- (3) 駅前/広島駅前南口は買い物と居住の併存地区、八丁堀・金座街・本通り・紙屋町・大手町は買い物とオフィスの併存地区となるが、買い物嗜好としては将来的に駅前が「家庭用、生活用」中心、都心が「高級品志向」という形で共存するだろう。そして、都心においてシャレオは、都心が高齢化せぬよう若者も引き付ける役割を果たすであろう。無論“若者を中心としたにぎわいのための場”としての球場跡地は、八丁堀・紙屋町が一層多様で重厚多層な都心として形成されて行くことに貢献するであろう。

2012. 5. 26.

大手町1丁目町内会